



## シホテ・アリンと交流事業を進めています

文 - 増田 泰 事務局長

なぜシホテ・アリン？

シホテ・アリン自然保護区の名前は知らなくても、黒澤明監督が映画化した探検小説『アルス・ウザール』ならご存じの方も多いのではないのでしょうか？この小説の舞台となったのがロシア連邦東部、沿海州地方に広がるシホテ・アリン自然保護区です。広さ約40万ヘクタール（知床国立公園の約7倍）で、アムールトラや知床でもおなじみのヒグマやシカがいる一方、日本では絶滅してしまったカワウソやオオカミも生息し、鳥類約350種、植物約2000種、哺乳類72種など、多くの生き物の貴重な生息地になっています。

この自然保護区は知床から最も近い海外の世界自然遺産でもあります。また、ヒグマやシマフクロウが生息するなど知床との共通点も多く、両者が交流の場を持つことで、生物の進化の歴史の解明や絶滅危惧種の保全に向けた新たな取り組みが始まることが期待されています。

そして今、知床財団は知床博物館などと共同で、シホテ・アリンとの交流事業を進めています。

増田 泰 事務局長

知床財団をひっぱり手する事務局長。デスクワークよりも現場に出ている方が性に合っているようで、常に事務所の無線に耳を傾けている。



### 行ってきました

交流事業のひとつとして、2012年9月にアサヒビル株式会社からのご寄付を受け、この自然保護区を束ねるアナトリー・アスタフイエフ所長を知床にお招きし、知床博物館と共に知床とシホテ・アリンの今後の交流について協議したほか、知床世界遺産センターにおいて講演会も開催しました。

そして、2013年2月13日、今度は知床からシホテ・アリンを訪ねてきました。地図上で見ると、距離的にも近いシホテ・アリン自然保護区、真っ直ぐ飛んでいければ近いのですが、ところがどっこい、そうはいきません。ロシア沿海州地方の拠点都市ウラジオストクから自然保護区の事務所があるテルネイという町まではなんと片道約700キロ！毎週月曜日に定期便のヘリコプターが飛んでいるものの、地元の人も含めて陸路での移動が一般的です。長距離路線バスも走っていますが、今回は保護区から迎えて来ていただきました。途中、食事やトイレ休憩の時間も入れて約13時間の冬道ロングドライブ。2泊3

日の旅程でしたが、1日目と3日目は移動のみで現地滞在は正味1日だけの弾丸ツアー。シホテ・アリンは思った以上に速かったです。朝ウラジオストクを出発して現地に到着したのは22時頃。シホテ・アリンの皆さんは、夜遅くにもかかわらず、心のこもった手料理とウォッカを用意して出迎えてくれました。



歓迎会の様子。右端がシホテ・アリン自然保護区のアスタフイエフ所長。



写真：(右) ゲストハウスから見たテルネイの町。(左上) ゲストハウスの外観。別名トラハウス。(左下) 非常に快適だったゲストハウスの部屋。室内は壁にかかった絵も布団もすべてトラ、トラ、トラ！

